

原 学校だより

令和3年2月19日
横浜市立原中学校
校長 関 宣也
tel 391-0461

No. 9

2020 年度を振り返って

副校長 馬越 秀夫

令和2年4月、272名の新入生を迎え、全校生徒860名で原中学校の新年度がスタートしました。

本年度を振り返ると、コロナ禍において、様々な行事が中止になったり、制限されたりしました。その中でチーム原中学校として、職員、生徒、保護者、地域が理解と協力の元、すべての行事を中止にしているのではなく、「いつか、平穏な日常が戻る日」のため、十分な感染症対策を施し、今の状況で出来ることを実行しました。

特に、何度も感染症対策を練り直して10月に本校の体育館で行われた合唱コンクールは、どのクラスも一致団結し、美しい歌声を響かせていました。一つのことに全員で取り組む経験、仲間と共に感動を共有する体験は、自尊感情の基礎となり、一人ひとりが今後の学校生活に向けて大きな自信をもったと思います。

学校をリードしてくれた3年生は夏休み明けに部活を引退し、進路選択に向けた取組を始めました。あとわずかな時間を原中学校の心として、1・2年生に良き伝統を引き継いでください。9月以降、部活動などでは2年生を中心とした学校生活が始まりました。また、11月には生徒会選挙が行われ、名実ともに2年生は、新しい原中学校の顔となりました。今後、学校を引っ張っていく立場であることを自覚して行動してほしいです。1年生は学校生活にも慣れ、成長が感じられます。原中学校の希望として、2年生と共に、3年生から受け継いだ伝統を守るとともに発展させ、学習・行事・部活動等に挑戦していきましょう。

3年生は、今が進路決定の真ただ中です。そして卒業まであとおよそ二週間。自分で納得のいく進路を目指し、最高の卒業式を迎えてください。

令和3年4月からは新しいステージが始まります。正直、不安はあると思いますが、今までチーム原中学校みんなが温かい心で作上げてきた空間で過ごした経験と、お互いの温かさをダイレクトに受け合ってきたみなさんなら大丈夫だと胸を張って言えます。

12月に3年生と面接をしたとき、「原中学校の良いところは？」と聞くと、「みんなが元気よく挨拶をすること」だという答えが返ってきました。また、「原中学校のことが好きですか？」という質問に全員が「はい、大好きです。」と答えていました。私自身、原中学校に来て1年目ですが、みなさんの元気のいい爽やかな挨拶や人を思いやる心の温かさに触れたことで心を励まされ、前向きになることができました。本当に感謝しています。



みなさんの新しい場での活躍を確信しています。いつか平穏な日常が戻る日のために、ともに顔晴（が んば）りましょう。

保護者の皆さまや地域の皆さまにも本校へのご理解・ご協力をたくさんいただきました。合唱コンクールや授業参観に足を運んでいただいたり、PTA活動に参加していただいたりしました。皆さまに見守られながら本年度もあとわずかとなりました。本当にありがとうございました。今後も温かなご支援をよろしくお願いいたします。

9組校内音楽発表会

2月9日(火)に校内音楽発表会を行いました。例年では横浜市立中学校個別支援・特別支援学校合同学芸会がこの時期に行われます。この学芸会に向けて「パイレーツ・オブ・カリビアン」の打楽器演奏を練習してきましたが、今年は中止となってしまいました。中止になり発表の場がなくなってしまいました。一生懸命に練習した演奏を、発表する場をとの声に後押しされ、このような場を設けさせていただきました。多くの方々のご協力に厚く御礼申し上げます。

先の見えない状況でしたが、子どもたちは諦めず毎日こつこつと練習を重ねてきました。うまくリズムが取れなかったり、初めての楽器に戸惑ったりと本当に苦戦しました。その中で、音楽の時間やほかの時間も使って、毎日練習をしてきました。うまくいかずに落ち込むことも、思うような演奏ができずにイライラすることもありましたが、子どもたち同士で励ましあい、教えあい少しずつ形になっていきました。家に楽譜を持ち帰り、各家庭でも支援をしていただいて素晴らしい演奏が出来上がりました。本番で、海賊風の衣装に身を包み、自信をもって発表していた子どもたちの姿はとても輝いていました。

9組のみんなお疲れ様！

(9組担任)

厚生委員会

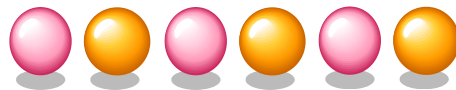
昨年度に引き続き、今年度も厚生委員会が行っているペットボトルキャップの回収にご協力いただき、ありがとうございました。先日、業者に引き渡しを行い、26,832個のペットボトルキャップが回収されました。回収分で作れるワクチンは31人分でした。

また、今年度は、生徒たちの提案により、ペットボトルキャップの回収箱を透明なものにすることで、回収量を増やすことができました。来年度も引き続き、ご協力の程、よろしく申し上げます。

(厚生委員会担当)



図書館で展示



…美術科 1年… 銅レリーフ『私の好きな動物』

1年生の美術科の授業では『私の好きな動物』というテーマで、銅レリーフを制作しました。銅レリーフとは薄い銅板を表や裏からへらで押したたいたりして半立体に加工し、腐食させてから磨きあげ、最後にニスをかけて仕上げる作品です。

ハガキ大の0.1ミリの銅板が少しずつ変化していく過程は、とても面白く、わくわくします。生徒たちはみな楽しく意欲的に、自分の作品に取り組んでいました。そして、自分の大切なペット、図書室で借りた本から選んだ大好きな動物などをテーマにした、世界に一つの作品が完成しました。どれも動き出しそうな生き生きとした作品ばかりです。



今、図書室で2.3クラスずつ順に、1年生全員の作品展を開催中です。昼休みにはたくさんの生徒たちが訪れ、熱心に見学しています。

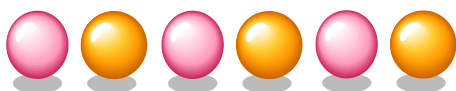
美術科では、こうして作品を制作することや鑑賞することを通して、豊かな心や優しい気持ちを育てていきたいと考えています。

力作揃い！3年生家庭科 絵本製作

3年生家庭科の授業では絵本製作を取り入れました。テーマは『幼児の能力を伸ばす絵本』です。優しい気持ちを育てたい、お片付けが上手になるように、自分のことは自分でできるように、お天気のこと、英語、数字などなど思い思いのテーマで製作しました。子どもの時に読んでもらった大好きな絵本を思い出したり、4、5月の休業中の課題で絵本を読んだりして発想を膨らませてきました。とてもよい作品が多かったので、司書の玉林先生に見せたところ、是非図書室で展示しましょうと、トントン拍子に話が進み、展示が実現しました。よい作品を下級生が見ると翌年もっとよい作品が生み出されます。赤学年の皆さんも期待しています！



美術部



《 第 80 回 全国教育美術展 》

全国教育美術展は日本で最も伝統のある子どもの絵の展覧会です。本年度、美術部はこの展覧会において、優れた成績を取めた学校に贈られる教育委員会賞を受賞しました。また同時に個人賞として2名の特選、4名の入選者を出すことができました。

コロナ禍により部活動の開始が7月になり、また活動時間も制限される中、一人ひとりの複雑な思いは凝縮されて色や形になり、今しか描けない今だからこそ描ける素晴らしい作品が、たくさん生まれました。富田さんの作品は Playful と題され、遊び心たっぷりの不思議な世界。窮屈な現実世界を忘れさせるような、彼女にしか描けない楽しい世界観を見事に表現しています。〇〇さんの作品は中学生になって初めての自画像。ポーズを決めるところから思案している自分を自由に感じた色で表現し、制作中のわくわくした心の声が聞こえてくるようです。

「作品に向かう時、悲しいこと辛いことはそこに吸収されて小さくなり、楽しいこと嬉しいことは作品の中で広がり大きくなります。なぜなら作品はあなたの分身だからです。」子ども達には、そう伝えていきます。美術部の子ども達には、描くことを通してこの不安な時代を乗り越え、より大きな可能性に向かって進んでいって欲しいと願っています。

これからも美術部の成長を見守っていただければ幸いです。

(美術部顧問)

学校賞 横浜市教育委員会賞

個人賞 特選 3年 1名

1年 1名

3年生 特選の作品



1年生 特選の作品

